

4

古文の知識を学ぼう1 カレンダーと方角

- ①男もすなる日記といふものを、女もしてみんとて、するなり。
- ②その年の、しはすの、二十日あまり一日の日の、戌の時に門出す。
- ③そのよし、いささかにもに書きつく。
- ④ある人、県の四年、五年はてて、例のことどもみなし終へて、解由などとりて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。
- ⑤かれこれ、知る知らぬ、送りす。
- ⑥年ごろよく比べつる人々なん、別れがたく思ひて、日しきりに、とかくしつ、ののしるうちに、夜ふけぬ。

『土佐日記』

① ②の「しはす」は陰暦の月の異名です。他の月名と季節も教科書や便覧で調べ、次の空欄を埋めてみよう。この陰暦と今の太陽暦では季節感が少し異なるね。

春		
三月	二月	一月
		睦月 むつき
夏		
六月	五月	四月
	皐月	
秋		
九月	八月	七月
ながつき		
冬		
十二月	十一月	十月

② 次の動物にあてはまる漢字を、後の語群の中から選んで、空欄に書き込もう。

Each illustration is followed by a small square box for the student to write the corresponding Chinese character.

口語訳

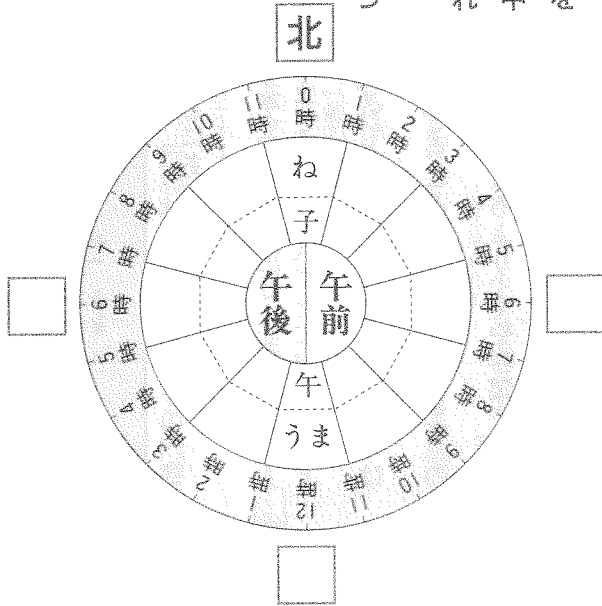
- ①男も書くという日記といふものを、女の私も書いてみようと思つて、書くのである。
- ②ある年の、□月の、□日の、□時頃に出発する。
- ③そのいきさつを、少しばかり、紙に書きつける。
- ④ある人が、国司としての四、五年の任期が終わり、交代の事務などをみなし終わって、解由状などを受け取つて、住んでいた官舎から出て、船に乗ることになつている場所へ移る。
- ⑤あの人やこの人、知っている人も知らない人も見送りをする。
- ⑥長年の間親しくつき合つて来た人々は別れづらく思つて、一日中あれこれして言い騒ぐうちに、夜がふけた。

語句の解説

- (1) その年の…ある年。わざとぼかしている。
- (2) 県の四年、五年：地方の国司としての任期。
- (3) 解由：国司交代の際に、後任の国司が前任の国司の任務に過失のなかつたことを証明し、渡す書類。
- (4) ののしる…声高に言い騒ぐこと。現代語の、相手を言いおとしめる意味ではない。

- ③ 下の図は、時刻と方角を表している図だよ。図の中に十二支と方角を書き入れよう。
- ④ 右の本文の傍線部はいつ頃を示すか考えよう。

時頃 日 月



◆ 語群
子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥

紀實之をなして、女性なの？
『土佐日記』の作者といえば、歌人としても有名な紀實之。でも男なのに「女の私も日記を書くのかしら」って思っただけ。「なんて書いてみるのよ、ついでにわがや」
実は当時の「日記」といえば、政務や行事、儀式などに「日々の記録」を漢字で記したもので、もっぱら男性が書いていました。でも實之は女性が用いていた「平仮名」で自分の胸の思いをわらわらと綴る文章の魅力にとりつかれ、「平仮名」で和歌をまぜながら日記を書いてみることに思っただけです。そこで、男世界の常識に反れず、自由に自分の感情を表現できるように、女性が書いているという体裁の作品にしたのが『土佐日記』なのです。
實之さんは、決して女性じゃなかったんですかー！